

Person on Topic

INTERVIEW | 地域産業を考える…①



FJワークス 代表
藤野亮氏

スノーボードに没頭した十代に解体業、溶接業などを経験。2013年4月に解体業を中心に手がける「FJワークス」を立ち上げた。お客様思いの解体業者を自認し、相手の立場を理解したうえでの提案、対応を心がけ、プロ集団としての自覚を持って業務と取り組んでいる。

FJワークス

☎ 042-978-6563
☎ 042-978-6563
📍 埼玉県日高市横手1-3-44
E-mail ● fjworks@yg7.so-net.ne.jp
<http://good.kaitai.biz/fjworks/company>

約束カードを基に 高い意識を共有し 近隣との関係重視

行動の指標となる「お客様へのお約束カード」を導入し、高い意識をスタッフ全員で共有しています。施主様はもちろん近隣の方々も私達にとっては大切なお客様です。敬意を持って接し、ご満足いただけるように努めます。

廃材が秘める可能性視野に 解体事業の将来展望を描く

異色の動機で解体事業界に入り、コストパフォーマンスと高品質な仕事を堅持し、廃材の可能性も視野に将来展望を描く。

スクラップ・アンド・ビルド。老朽化したり効率が悪くなったりした設備を廃棄し、新しい設備に置き換えること。社会はこの繰り返しで前進してきた。家屋などの建造物の解体はその最初のステップ。埼玉県高市の「FJワークス」は、建設リサイクル法で東京都と埼玉県に登録し、堅実な仕事ぶりで業績を伸ばしている解体事業者だ。代表の藤野亮さんがこの世界に足を踏み入れたきっかけは異色だ。

「スノーボードに魅せられていた十代の頃、その資金を得るために直感で解体業を選んだのです。一度は退職し、溶接業で働き、その後、知人に誘われて解体業に戻り、理想を追うために独立を決意しました」
解体工事では、どうしても音や振動、土埃などが出る。藤野さんが最も気を遣っているのは、近隣との関係づくり。
「当然ながら、破片が飛んだりしないように最大限の注意を払っていますが、近隣の方からのご理解を得るという意味でもコミュニケーションを大切にしています。同時に綺麗に仕事することも意識しています。例えば、解体後に生じる木くずや解体材は、可能な限り美しく積むようにしています。トラックの積み荷は解体業者の顔。廃材の扱い方を見れば、現場での仕事ぶり

が想像できますから」
建設リサイクル法で登録された解体工事業者は全国に約8000。景気回復の兆しが見えているが、消費増税後に住宅の建て替え需要の反動減も予想される。藤野さんの将来展望は、解体事業の他の可能性をも見据えている。
「解体業というのは、ただ壊すだけではなく、リサイクルの最前線で仕事をしているのです。廃材はウッドチップとして燃料になり、金属類は再利用され新たな建材になります。そうしたエコに貢献できる業種としての認知度をより高めていきたいと思っています」
関東エリアでNo.1のコストパフォーマンスと高品質な工事の維持に加え、他事業の展開も視野に入れながら法人化を目指している。
(ライター／斎藤 悠)